

景観まちづくり学習助成事業実施校 学校名 広島市立吉島小学校

① 学習指導案

プログラム	No.5 「 地域カルタをつくろう 」
単元名 (全8時間)	吉島の魅力発見隊 ～カルタで魅力を伝えたい！！～
学習のねらい	1 自分たちの地域を調べていく中で、町の景観の特徴を知り、まちを愛する人々の思いから、地域愛を育み、それを周囲へ発信しようとする態度を育てる。 2 写真や絵、文章で表現する力を養う。
学習内容	1 カルタ作りの計画を立てる。 2 フィールドワーク（テーマに沿った写真撮影）実施。 3 カルタを作成し、実際に遊んでみる。 4 他学年へ紹介を行う。 5 まとめ
参考資料 準備品 実施場所等	

学習の流れ

時間	学習活動	教師の指導	評価
1	1 吉島のカルタを知る。	・教員が予め作成したカルタで遊んで、自分達も作りたいという意欲をもたせる。	意欲
	2 自分たちも吉島を巡ることで、吉島の魅力を再発見する取組を知る。	・吉島の魅力をみつけてカルタ大会を行うことを伝える。	
1	3 カルタの担当文字を決める。	読み札と取札の書き方の違いを指導しておく。児童が作成しやすいワークシート等の工夫を行う。	
2	4 フィールドワークをする中で、魅力的な場所を写真におさめる。	みんなに知ってもらいたい場所を予め考えたり、ある程度調べてみたりすることで、どんな写真をとってくればいいのか見通しをもたせておく。	課題設定能力 課題迫及能力

4	とってきた写真を使って、カルタを作成する	絵具・クレヨン・マーカー・色鉛筆等、使える画材を確認する。	表現力
1	5 カルタ大会を行う	友達の作品で、すてきだなと感じた部分を発表し、次時の紹介への見通しをもたせる。	
3	6 下学年にカルタを紹介し、実際に遊んでもらう。	・紹介の方法を自分たちで企画させる。自分たちの地域に対する思いをどうやったら伝わるか考えさせる。	主体的な活動
	7 まとめ	・地域とのつながりを考えたうえで、地域の人々にも伝えられるようにしたい。	

② 事業実施報告書詳細

学校名 広島市立吉島小学校

時間数	場所	概要	活動記録(写真)	対象者の反応
1	教室	・吉島の地域を題材としたかるたを作ることを知る。 ・過去の作品を見ることで、見通しを持つ。 ・吉島のどこに魅力があるのか話し合い、写真を撮りに行く見通しを持つ。	 	過去に作成したかるたを目にすると、「作りたい!」「この場所がいい!」と意欲的な姿が見られた。また、魅力ある場所が多数あるため、どこを写真に撮るか悩んでいた。
2	校外	・校外を歩き、お気に入りの場所を撮影する。	 	納得のいく写真を撮るために何度も撮り直す姿が見られた。また、2つ以上のお気に入り場所がある人は、どちらにしようか迷っていた。
2	教室	・自分が撮影した写真をもとに、どのような絵・読み札にするのか計画を立てる。 ・読み札の担当文字を決める。	 	自分の好きな場所ということもあり、細部にまでこだわりを見せる児童が多数いた。また、読み札についても、納得のいく言葉に出会えるよう調べている児童もいた。

4	教室	・画用紙に下書き、清書をする。	  	・大好きな風景を再現したいという思いからか、色や形にこだわりを見せながら、書いていた。時間をかけ、細部を一つ一つ取組、描けたときの達成した表情が素晴らしかった。
1	教室	・自分たちが作ったかるたで実際に遊んでもらう。(2年生) ・かるたの感想を聞く。 ・活動を振り返る。	 	・自分たちが力を入れて作ったかるたを、実際に遊んでもらえたこと、どこの場所か当ててもらえたことに感動していた。 ・吉島には素敵な財がたくさんあることに気付き、もっとその場所や行事に関わりを持ちたいという意欲を高めていた。

③ 実施内容について

(1) 実施にあたり工夫した点

以下の点を工夫しました。

- ① 「この場所がいい！」と思える場所を選ばせることで、主体性に繋がるようにした。
- ② 細部にこだわりたい児童が多かったため、その描き方を指導し、実現できるようにした
- ③ タブレットを使うことで、実際に風景を見ながら描けるようにした。
- ④ 実際に低学年にかかるたで遊んでもらう場所を設定することで、より意欲が高まるようにした。
- ⑤ 既習の内容を振り返ったり、Google earthを使ったり、登下校を思い出したりすることで、吉島の地域の魅力ある場所にたくさん気付けるようにした。
- ⑥ 個々のその風景と関わりのあるエピソードを想起させることで、より愛着が湧くようにした。

(2) 実施にあたり苦労した点

- ① 個人個人で撮影したい場所がバラバラなため、撮影が困難であり時間がかかった。
- ② 魅力ある場所が多数あり、決めきることが難しい児童が多かった。
- ③ 画用紙が破れないようラミネートすることに、時間を要した。

(3) 児童の反応

題材が「吉島」「かるた」というとても身近なものであることも起因してか終始、意欲的に取り組んでいた。吉島の魅力はすでにたくさん感じている様子であり、かるたにする場所を決めることに困難を極めたが、楽しそうに選んでいた。かるたに実現できたところは、より愛着が増した様子で、これからも大事にしていきたいという思いが強くなっている。実際にかかるたにできたという達成感がとてもあった様子で、こだわりを実現できたことに嬉しさを感じていた。また、実際に自分たちが使ったかるたを他の児童が使って遊んでいる姿を見ることにも嬉しさを感じていた。単元終末では、「もう一度やりたい!」「吉島の違う場所でもう一度やりたい!」という声が上がった。

(4) 担当教諭及び担当外教諭の変化

実際にフィールドワークに行くことで、より吉島の魅力に気付くことができた。実際、車で通ったりするので地域を知ったつもりでいたが、実際に歩くことで気付けることも多数あった。児童たちや地域の人たちを支える様々な施設、温かな関りをしてくださる地域の方々等、その魅力はまだまだ存在しそうである。総合的な学習の時間でも地域にある「中工場」を題材としている。「環境」「ごみ」「平和」を繋げて考えられる唯一無二の場所であると思う。中工場をはじめとし、吉島に生まれ育ったことに誇りをもてるような指導をしていきたいと思う。また、こうした活動を他学年に周知することで、「地域を題材とすることの良さ」がより伝わったと思う。実際に足を運び、その魅力に出会うことの大切さを感じ、今後もフィールドワークや地域の人々との交流を大切にしていきたいと感じている。

(5) 今後の課題と取り組み〔児童の思考過程と指導内容との関連付けから、留意すべき事項等〕

この単元で大切なのは、「本当に児童が実際に魅力を感じる場所」にすることが大切である。しかし、それを実現するためには多くの時間・人材を確保した上で、フィールドワークに向かう必要がある。また、「なんとなく」ではなく、具体的なエピソードがある場所を選べるようにすることが大事だと感じる。児童は実体験をもとに語っている。エピソードと関連づけられた風景には力がある。こうした力ある絵に魅力は必ずついてくると思う。